

令和6年1月10日 新春記者会見

【質疑応答要旨】

- <記者> 自動運転実証調査について、市独自で行うものか。
- <市> 本市が行う自動運転実証調査は、市独自で行うもので、BOLDLY株式会社に業務委託するものである。今回は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金を国から補助をいただき実施するものである。
- <記者> BOLDLY株式会社はどのような会社か。
- <市> 自動運転については、多くの実績を要しており、近隣の市であると岐阜市、日進市などで、今回本市が採用する車両と同じ車両で実証調査を行っている。
- <記者> 安全対策はどのようにするのか。
- <市> 今回の実証調査のレベルは、レベル2であり、アクセル・ブレーキ操作、ハンドル操作の両方が部分的に自動化されたものである。オペレーターが乗車して、危険などを予測した場合などについては、手動に切り換えて、操作をするものである。信号での右左折等もあるが、そのよう場合には、手動で安全に配慮しながら運行する。
- <記者> 一般の人は乗れるのか。
- <市> 一般の乗車について、現在作成中であるが、予約フォームを作成し、原則予約で一般の方に乗っていただきたいと考えている。
- <記者> バス停で待っていても乗れないのか。
- <市> 検討中だが、自動運転車両が運行していることを知らない方もいると思うので、一部予約なしでも乗れる枠を設けたいと考えている。
- <記者> この調査で観光振興はどのように検証ができるのか。
- <市> 自動運転車両を運行することにより、市の知名度上げるとともに観光振興、及びそれに関連する商品などに対する認知度も高め、本事業を通して新たなツーリズムを構築していきたいと考えている。検証の内容としては、今後、具体的に検討していくが、小牧山の歴史館やれきしるこまきの来館者数などが、

どれくらい増加するかを把握したいと考えている。

<記者> このルートに選定した理由は何か。

<市 長> 技術的な検証以外に、観光振興やまちづくりに関しても検証を行いたいため中心市街地を選定した。また、今回時速20km程度で走行するため、一般交通の速度が速いところであると、追突などの危険性も考えられるのでこのルートに選定した。

<市 長> 本市は、コミュニティバスに力を入れており、市内を23コースが走行しているため、負担も大きい。これを持続可能な形で行うためには自動運転を進めていく必要がある。技術的な課題はあるが、できる限り早期の実現に向けて市としてもやっていきたい。

<記 者> 市政施行70周年記念事業について、事業経費補助などの募集はいつ始まるか。

<市 長> 現在、調整をしている。市民の皆さんに喜んでいただける企画を各方面で相談をし、多様な催しをやっていければと考えている。

<記 者> 今年から仕事始め式を取りやめたことで、職員の休暇取得の効果はあったのか。

<市 長> 現在、集計中である。今回は、決定したのが遅くなってしまったため、十分な準備からアナウンスができなかった。今後もできるだけ休暇を取得してもらえるように考えていきたい。